

※学習目標
「登場人物同士の関係や心情を把握しながら読み、「僕」の発言の背景にあるものを理解する。」

イラク戦争について

2003年、アメリカが中心となり、大量破壊兵器の保有を理由にイラクを攻撃した戦争。国連の承認はなかった。サダム・フセイン政権は短期間で倒れたが大量破壊兵器は見つからず、治安は悪化。のちの過激派組織ISの台頭など、長期にわたる地域の不安定化を招いた。

内容のまとめ

※「僕」アフメド」が日本人ジャーナリストの「お客さん」に語りかける形式（一人称語り）で進められる
父を徴兵で、祖母と二人の妹を空爆で失ったアフメドは、叔父が母親と親密になっていくのが不快でならないが、その叔父は彼の身代わりにアメリカ軍に連行され殺された。アフメドを養うため家政婦をしていた母親も、勤め先でアメリカ軍の銃撃に遭遇し無残に死んだ。
悲嘆に暮れたアフメドはアメリカ軍への復讐を誓い、拳銃を手に入れるために靴磨き営んでいる。この日、アフメドは日本人ジャーナリストから60ドルを受け取った。
この金で拳銃を二挺買い、占領者（アメリカ軍）を殺すと言う。

① P144L4 ② P144L15 ③ P145L12 ④ P147L14

② P140L11 ② P151L6 ※教科書の脚注を参照すること。

③ P138L6 ② P138L12
④ P139L16

④ P139L16

四 母に好意を持ってしている叔父が母を支えようとはしごの下から手を伸ばしている場面である。アフメドは何か嫌で間に入ったのである。何が嫌だったのかを明らかにして書くこと

五 「気を揉む」とは心配なことやきがりなことがあって落ち着かない様子を指す。
P144L3～L5の段落を参照

六 P148L7～L11の段落を参照。抵抗組織とは、アメリカ軍が不当にイラクを占領していると考えている人たちの組織である。アフメドはあることに気付いて、抵抗組織の手伝いを始めるのである。

七 アフメドの母が家政婦として働くアル・ブアサフ家はアメリカ軍の襲撃を受け、母を含めた5人が死亡した。この作戦はアメリカ軍の勘違いによってもたらされたものであった。それをお詫びとしてキーキーついで済まそうとしたアメリカ軍の感覚は異常と言うよりほかない。

思考判断表現1
激しい自己嫌悪の感情である。アフメドは自分のどのような行動に後悔を感じているのか。よく考えて書きましよう。

思考判断表現2
銃は人を殺すための道具だが、アフメドは「人は殺さない」と言う。アフメドは銃を使う対象を「人」と見なしてないことが読み取れる

主体的に学習に取り組む態度
問題文をよく読み、求められていることを決まりどおりに書くこと。

NHK高校講座（文学国語）QRコード



後期第五回レポート
提出期限 令和八年一月二十一日
【消印有効】

